【研究論文】

# 中学校国語教科書から見た助動詞と文章ジャンル
## —小規模コーパスを活用した文法用例集作成の構想と検証—

杉山　俊一郎

## 1．はじめに

本稿は，中学校国教科書を対象として，口語助動詞の意味・用法が文章の性格によってどのような使用傾向にあるのかを明らかにするものである。その整理の結果を示すことで，以下の２点を検証し，教育と研究を繋ぐ語彙・文法データベース作成の手がかりを得ることが本稿の目的である。

①読解・作文指導に資する文法用例集作成の可能性

②教科書を小コーパスとして活用した場合の文法・文体研究の有効性

現行の中学校国語教科書における助動詞の取り扱いを参照すると，以下のとおり，各社ともまず各単元内に置かれたコラムによって導入が図られたのち(**表１**)，巻末にまとめて掲げられた活用表や練習問題によってその概要がつかめるような構成となっていることが知られる。

**【表 1】**

| | 第１学年 | 第２学年 | 第３学年 |
|---|---|---|---|
| 東京書籍 | 単語の分類<br>※活用する付属語<br>【コラム３】p.121<br>【巻末解説】p.256-<br>※コラム名「文法の窓」 | 助動詞<br>【コラム４】p.150<br>【巻末解説】p.264- | 文法のまとめ<br>※紛らわしい語の識別<br>【コラム３】p.152<br>【巻末解説】p.258- |
| 教育出版 | 単語のいろいろ<br>※活用する付属語<br>【コラム３】p.186<br>【巻末解説】p.234-<br>※コラム名「文法の小窓」 | 付属語のいろいろ<br>【コラム３】p.201<br>【巻末解説】p.263- | 活用のある付属語<br>【コラム２】p.101<br>【巻末解説】p.244- |
| 学校図書 | 品詞分類<br>※活用する付属語<br>【コラム２】p.96<br>【巻末解説】p.287-<br>※コラム名「文法の学習」 | 助動詞①②<br>【コラム２】p.84<br>【コラム３】p.166<br>【巻末解説】p.284- | 【コラム】なし<br>【巻末解説】p.276-<br>※紛らわしい語の識別，新しい助動詞（「みたいだ」）の誕生等，発展学習を含む。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 三省堂 | 単語の類別・品詞<br>※活用する付属語<br>【コラム 2】p.165<br>【巻末解説】p.221-<br>※コラム名「文法のまど」 | 助詞・助動詞<br><br>【コラム 2】p.151<br>【巻末解説】p.228- | 【コラム】なし<br>【巻末解説】p.208-<br>※助動詞相当語句，視点と表現，練習問題等，発展学習を含む。 |
| 光村図書 | 単語の性質を見つけよう<br>※活用する付属語<br>【コラム 3】p.229<br>【巻末解説】p.249-<br>※コラム名「文法への扉」 | 一字違いで大違い<br>※付属語の働き<br>【コラム 3】p.211<br>【巻末解説】p.250- | 「ない」の違いがわからない?<br>【コラム 2】p.180<br>【巻末解説】p.221- |

こうした構成は，生徒の「文法」に対する苦手意識の緩和や，文法学習の効率化に一定の役割を果たしていると理解される。一方，教科書における助動詞の取り扱いをその後の発展的学習の観点から見たとき，かえってその取り扱いのコンパクトさが，具体的には，

①それぞれの助動詞が表す主な意味・用法を簡単な作例とともに示すのみであること

②品詞や意味の識別問題を中心とする練習問題も，短くまとめられた典型例が若干並べられているに止まること

などが―その後の助動詞学習の方向性を見いだしにくくしている点で―問題になるように思うのである。

もちろん，国語教科書は日本語文法の詳細を網羅的に示すためのものではないし，初学者の文法学習では簡単な例，典型的な例に拠ることが重要なことも言うまでもない。しかし，文法学習が教科書記述の範囲にとどまる場合，その学習が果たして生徒の「読む」活動・「書く」活動にどの程度役立っているのかは，また別に考えてみなければならない問題であろう(1)。

本稿執筆者は，文法学習を読解や作文にも役立つものとするには，実例を参照して，その生態を学習者自身に把握させる作業が有効だと考えている。実例の参照，分析は，文章読解だけでなく，作文能力の向上にも役立つと期待できる。「書く」ことは，「読む」経験(モデルの獲得)を通して洗練されると考えるからである(2)。

実例の収集には，現在国立国語研究所が開発を進めている各種コーパスが有用である。この内，『現代日本語書き言葉均衡コーパス(以下 BCCWJ)』には，小学校・中学校・高等学校の全教科・全科目を対象とした「教科書コーパス」が収められており，すでにこれを活用したさまざまな研究成果

も蓄積されてきている[3]。現在はBCCWJ所収の自立語データに対して現代日本語のシソーラス『分類語彙表　増補改訂版』(2004)に基づく分類番号の付与が，付属語(助動詞)データに対して『現代語の助詞・助動詞』(国立国語研究所報告3，1951)にしたがった用法情報の付与が，それぞれ進められ，これまでの見出し語(語彙素)別，品詞別，活用形別，語種別の調査に加え，意味別の調査が可能になりつつある[4]。

一方，もともと言語研究のために構築されたBCCWJを，国語教育において—とりわけ生徒自身による用例分析のために—活用しようとした場合，現行学校文法との単語認定の相違や，検索結果に対する解釈などの面から，やや難易度が高いと感じられるのも事実である。後者に関してより具体的に言えば，次の2点が問題として考えられるだろう。

①BCCWJには，「書籍全般，雑誌全般，新聞，白書，ブログ，ネット掲示板，教科書，法律などのジャンルにまたがって1億430万語のデータ」が収められている。そのため，コーパスの規模が大き過ぎて，用例を十分に扱いきれない可能性，標準的な表現とそうでない表現との判定が難しくなる可能性がある。

②BCCWJには地の文・会話文の別，本文中の位置等の情報は付与されていない。また，ジャンルも国語科で一般的な文学的文章・説明的文章といった分け方とは相当に異なっている。そのため，学習者自身が文章読解や作文の問題と関連づけた用例分析を行おうとした場合には難しい可能性がある。

こうした問題を解決する一つの方途としては，

①それを用いれば各文法事項に関するひとまずの傾向が把握でき，

②そこからの発展を考えたときにBCCWJへの移行も円滑にできるデータベースを，

③学校教育の文法学習に適したサイズで作成する

ことが考えられよう。

そこで本稿では，中学校の国語教科書をひとつの小コーパスと見立ててこれをデータベース化し，その範囲内においてどのようなことが言えるのかを，「助動詞の使用と文章ジャンルの相関」を事例研究として行ってみる。中学校の国語教科書には，説明文，小説，随筆，ノンフィクション，詩など，さまざまなジャンルの文章がバランスよく収められており，各助動詞

のジャンルによる使用傾向の差異を見るのに適している。また，各教材本文中の言葉も，語彙・文法的にあまり逸脱した表現を含まない穏当なものと評することができ，それが標準的な表現であるかどうかの判断も比較的行いやすいと思われる。言語量は限られているが，まずはこの範囲でどのような傾向が見られるのかを検討したい。

## 2．調査の概要

光村図書の国語教科書『国語 1』『国語 2』『国語 3』(平成 31 年 2 月 5 日発行(平成 27 年 3 月 6 日文部科学省検定済))の計 3 冊を対象とする。

各教科書に収められた教材本文をテキストデータ化し，これを国立国語研究所が公開している形態素解析ツール「Web 茶まめ」(https://chamame.ninjal.ac.jp/)にかけたあと，目視によってエラーを修正した。また，同ツールでは出力されない各データ(単語の前後文脈情報，出典情報，文章ジャンル，本文種別，助動詞の意味・用法等)の付与も手作業で行い，Excel ファイルによって下図のようなデータベースを作成した。

【図】

| # | 教科書 | 出典 | 文章 | 本文 | 左文脈 | キー | 右文脈 | 書字形(キ | 語彙素 | 語彙素読み | 品詞 | 大分類 | 中分類 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 国語1 | 野原は | 文学 | 詩 | | 野原 | はうたう野原 | | 野原 | ノハラ | 名詞 | 名詞 | 普通名詞 |
| 2 | 国語1 | 野原は | 文学 | 詩 | 野原 | は | うたうエは | | は | ハ | 助詞 | 助詞 | 係助詞 |
| 3 | 国語1 | 野原は | 文学 | 詩 | 野原は | うたう | 工藤直子うたう | | 歌う | ウタウ | 動詞 | 動詞 | 一般 |
| 4 | 国語1 | 野原は | 文学 | 詩 | はうたう | 工藤 | 直子あし工藤 | | クドウ | クドウ | 名詞 | 名詞 | 固有名詞 |
| 5 | 国語1 | 野原は | 文学 | 詩 | たう工藤 | 直子 | あしたこ直子 | | ナオコ | ナオコ | 名詞 | 名詞 | 固有名詞 |
| 6 | 国語1 | 野原は | 文学 | 詩 | 工藤直子 | あした | こそたんあした | | 明日 | アシタ | 名詞 | 名詞 | 普通名詞 |
| 7 | 国語1 | 野原は | 文学 | 詩 | 子あした | こそ | たんぽぽこそ | | こそ | コソ | 助詞 | 助詞 | 係助詞 |
| 8 | 国語1 | 野原は | 文学 | 詩 | したこそ | たんぽぽ | はるかひたんぽぽ | | タンポポ | タンポポ | 名詞 | 名詞 | 固有名詞 |
| 9 | 国語1 | 野原は | 文学 | 詩 | たんぽぽ | はるか | ひかりをはるか | | ハルカ | ハルカ | 名詞 | 名詞 | 固有名詞 |
| 10 | 国語1 | 野原は | 文学 | 詩 | ぽはるか | ひかり | をおでこひかり | | 光 | ヒカリ | 名詞 | 名詞 | 普通名詞 |
| 11 | 国語1 | 野原は | 文学 | 詩 | かひかり | を | おでこにを | | を | ヲ | 助詞 | 助詞 | 格助詞 |
| 12 | 国語1 | 野原は | 文学 | 詩 | ひかりを | お | でこにくお | | 御 | オ | 接頭 | 接頭辞 | |
| 13 | 国語1 | 野原は | 文学 | 詩 | かりをお | でこ | にくっつでこ | | でこ | デコ | 名詞 | 名詞 | 普通名詞 |

手作業で付与した情報の内，文章ジャンルについては，教科書目次に掲げられた「詩」「物語」「説明」「随筆」「記録」「ノンフィクション」等のアイコンにしたがい，これを説明的文章，文学的文章，文学的文章(詩歌)に分類した。また，本文種別については，地の文・会話文・手紙・詩歌の 4 種に大別した。

上の作業を経て得られたデータについて，各教科書の調査範囲，ジャンル，言語量をまとめたものが**表 2** である。

【表2】

| 国語1 | | | | 国語2 | | | | 国語3 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 作品名 | ジャンル | | 語数 | 作品名 | ジャンル | | 語数 | 作品名 | ジャンル | | 語数 |
| 野原はうたう | 詩 | P | 183 | 見えないだけ | 詩 | P | 74 | 春に | 詩 | P | 183 |
| 花曇りの向こう | 物語 | L | 1516 | アイスプラネット | 小説 | L | 3014 | 握手 | 小説 | L | 3489 |
| ダイコンは大きな根？ | 説明 | E | 837 | 生物が記録する科学 | 説明 | E | 2120 | 月の起源を探る | 説明 | E | 2551 |
| ちょっと立ち止まって | 説明 | E | 830 | メディアと上手に付き合うために | 情報 | E | 1374 | 「想いのリレー」に加わろう | 情報 | E | 1740 |
| 詩の世界 | 詩 | E | 173 | 新しい短歌のために | 短歌・解説 | E | 981 | 俳句の可能性 | 俳句・解説 | E | 1082 |
| | | P | 154 | | | P | 112 | | | P | 60 |
| 空を見上げて | 随筆 | L | 922 | 短歌を味わう | 短歌 | E | 13 | 俳句を味わう(俳句) | 俳句 | P | 94 |
| 光る地平線 | 物語 | L | 2402 | | | P | 91 | 「批評」の言葉をためる | 論説 | E | 1397 |
| 星の花が降るころに | 物語 | L | 2131 | 言葉の力 | 随筆 | L | 834 | 高瀬舟 | 小説 | L | 5673 |
| 大人になれなかった弟たちに…… | 物語 | L | 1860 | 世界で一番の贈り物 | 物語 | L | 3506 | 挨拶 | 詩 | P | 215 |
| シカの「落ち穂拾い」 | 記録 | E | 1499 | 盆土産 | 小説 | L | 3953 | 故郷 | 小説 | L | 5486 |
| 幻の魚は生きていた | 説明 | E | 1790 | 字のない葉書 | 随筆 | L | 1193 | 作られた「物語」を超えて | 論説 | E | 2049 |
| 竹 | 詩 | P | 90 | モアイは語る—地球の未来 | 論説 | E | 1950 | 初恋 | 詩 | P | 97 |
| 桜守三代 | NF | E | 2907 | 君は「最後の晩餐」を知っているか | 評論 | E | 2079 | エルサルバドルの少女ヘスース | NF | E | 2298 |
| 少年の日の思い出 | 小説 | L | 3881 | 落葉松 | 詩 | P | 225 | 誰かの代わりに | 論説 | E | 2003 |
| ぼくが ここに | 詩 | P | 103 | 小さな町のラジオ初 | NF | E | 2330 | わたしを束ねないで | 詩 | P | 232 |
| | | | | 走れメロス | 小説 | L | 6372 | | | | |
| | | | | 科学はあなたの中にある | 論説 | E | 1953 | | | | |
| | | | | 鍵 | 詩 | P | 244 | | | | |
| 合計 | | | 21278 | 合計 | | | 32418 | 合計 | | | 28649 |

E…説明的文章 L…文学的文章 P…文学的文章(詩歌)
NF…ノンフィクション

以上を文章ジャンル別の言語量(語数)にまとめた結果を**表3**に示す。

【表3】

| | 国語1 | 国語2 | 国語3 | |
|---|---|---|---|---|
| 説明的文章 | 8036 | 12800 | 13120 | 33956 |
| 文学的文章 | 12712 | 18872 | 14648 | 46232 |
| 文学的文章(詩歌) | 530 | 746 | 881 | 2157 |
| | 21278 | 32418 | 28649 | 82345 |

## 3．用例分布の概観

### 3．1 助動詞の用例分布と抽出方法に関する補足

まず，前章で示したデータベースから助動詞を抽出，整理した結果を**表4**に示す[5]。

**【表4】**

| 意味 | 助動詞 | 説明 | | 文学 | | | 詩歌 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 地 | 会話 | 地 | 手紙 | 会話 | | |
| 受身・可能・尊敬・自発 | れる | 253 | 4 | 127 | 4 | 20 | 8 | 416 |
| | られる | 70 | 3 | 48 | 3 | 7 | 1 | 132 |
| 使役 | せる | 26 | 2 | 41 | 2 | 13 | 1 | 85 |
| | させる | 1 | 0 | 4 | 1 | 2 | 0 | 8 |
| 希望 | たい | 20 | 5 | 34 | 2 | 11 | 9 | 81 |
| | たがる | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 |
| 否定 | ない | 164 | 9 | 240 | 8 | 79 | 18 | 518 |
| | ぬ(ん) | 56 | 1 | 66 | 1 | 44 | 6 | 174 |
| 推量・意志・勧誘 | う | 112 | 7 | 84 | 3 | 40 | 11 | 257 |
| | よう | 20 | 0 | 23 | 0 | 8 | 1 | 52 |
| 過去・完了・存続・想起 | た | 937 | 48 | 1666 | 89 | 255 | 33 | 3028 |
| 丁寧 | ます | 155 | 17 | 105 | 0 | 175 | 5 | 457 |
| 推定 | らしい | 1 | 0 | **16** | **0** | **1** | 0 | 18 |
| 推定・比喩 | ようだ | 146 | 8 | **137** | **4** | **29** | 1 | 325 |
| | ようです | 0 | 0 | **0** | **0** | **0** | 0 | 0 |
| 推定・様態 | そうだ | 6 | 0 | **30** | **0** | **10** | 0 | 46 |
| | そうです | 1 | 0 | **0** | **0** | **1** | 0 | 2 |
| 伝聞 | そうだ | 0 | 0 | **4** | **2** | **0** | 0 | 6 |
| | そうです | 0 | 1 | **0** | **0** | **0** | 0 | 1 |
| 否定意志・否定推量 | まい | 0 | 0 | **6** | **1** | **0** | 0 | 7 |
| 断定 | だ | 557 | 26 | 647 | 39 | 263 | 26 | 1558 |
| | です | 105 | 20 | 44 | 0 | 64 | 3 | 236 |

以下，助動詞の抽出方法について若干補足する。

本稿のデータベース作成に活用した「Web 茶まめ」の品詞認定は，学校文法のそれとは若干異なっている。例えば，「う・よう」は動詞・形容詞・助動詞の活用形(意志推量形)と分析され，助動詞として認められていない。形容動詞は，その語幹部分と活用語尾とが切り離されて，〈形状詞＋助動詞「だ」「です」〉と分析される。「ようだ」「そうだ」「ふうだ」「みたいだ」等も同様である。そこで本稿では，これらを以下の手順で抽出した。

○「う」「よう」は活用語の意志推量形によって集計した。

○「ようだ」は,「だ」の前接語に「よう」(助動詞語幹)が来るものを認めた。「ようです」も同様の手順による。

○「そうだ」は,「だ」の前接語に「そう-伝聞」「そう-様態」が来るものを認めた。表中,「そうだ$_1$」が伝聞,「そうだ$_2$」が様態である。「そうです$_{1\cdot 2}$」も同様の手順による。

○「だ・です」は以上二つの助動詞に加え,「ふうだ」「みたいだ」と形容動詞(形状詞に下接する「だ・です」)と認めうる例をすべて除いた例で集計した。

### 3.2　表4から分かること

**表4**で注目したいのは以下の2点である。

①受身の助動詞「れる」「られる」と使役の助動詞「せる」「させる」の使用傾向

②「らしい」「そうだ$_1$」「そうだ$_2$」「まい」などの推量形式の少なさ

まず,①について,「れる」「られる」「せる」「させる」の全語彙数における使用率を調べてみると,

| | 説明的文章 | 文学的文章 | 詩歌 |
|---|---|---|---|
| 「れる」「られる」の全使用率 | **9.7‰** | 4.5‰ | 4.2‰ |
| (受身の意味に限定した使用率 | **8.7‰** | 3.6‰ | 4.2‰) |
| 「せる」「させる」の全使用率 | 0.9‰ | **1.4‰** | 0.5‰ |

となり,受身の助動詞の使用率は説明的文章が多く,使役の助動詞の使用率は文学的文章が比較的多く,詩歌はそのどちらの使用率も低い傾向を見いだすことができる。したがって,例えば,「助動詞の用例を実際の文章から集めてみよう」といった課題を出した場合,受身の助動詞「れる」「られる」の意味・用法の確認には説明的文章が,使役の助動詞「せる」「させる」の意味・用法の確認には文学的文章が相対的に適しており,詩歌で用例収集を行う場合には多少苦労する可能性があると言えそうである。

ところで,受身と使役の助動詞の使用比率をジャンル別に出してみると,

| | 説明的文章 | 文学的文章 | 詩歌 |
|---|---|---|---|
| 受身の助動詞:使役の助動詞 | 330:29 | 209:63 | 9:1 |
| | 1:0.09 | 1:0.30 | 1:0.11 |

となり,この内「れる」「られる」から自発・可能・尊敬の意味に解釈でき

るものを取り除いて再集計すると，

| | 説明的文章 | 文学的文章 | 詩歌 |
|---|---|---|---|
| 受身の助動詞：使役の助動詞 | 296：29 | 167：63 | 9：1 |
| | 1 ：0.10 | 1 ：0.38 | 1：0.11 |

となる。いずれも受身の助動詞が多い点は共通しているが，その比率は，説明的文章や詩歌では受身が使役の10倍程度(使役が受身の1/10程度)であるのに対し，文学的文章では受身が使役の2.5～3倍程度(使役が受身の2/5～1/3程度)となっていて，後者の使用量が接近している。このことは，

○文学的文章の方が説明的文章よりも表現のバリエーションが多様であること(文学的文章で使役が多い理由)

○詩歌では使役表現を好まない傾向にあること(詩歌で使役が少ない理由)[6]

などが関係していると考えられる。

こうした助動詞と文章ジャンルとの相関は，②推量の助動詞の使用傾向においても見ることができ，「らしい」「そうだ$_{1\cdot2}$」「まい」などの助動詞は―そもそも全体に使用量が多くはないのであるが―明らかにその用例が文学的文章に集中している[7]。これも先に挙げた文学的文章の表現の多様性が関係していると言えるだろう。

このように，それぞれの助動詞には，文章の性格や内容との相性がある。こうした使用傾向と考え得る要因は，少し考えてみればあるいは当然のように思われるかも知れない。しかし，例えば，受身の助動詞と使役の助動詞の使用比率が，説明的文章よりも文学的文章の方でより接近していることや，詩歌における助動詞の使用が全体的に少ないことなどが本稿執筆者にとって少し意外な結果であったように，言語使用に関する主観的な見込みを可能な限り排し，どの語形式が，どのような資料に，どの程度存在するのかを具体的な数値とともに客観的に把握することは，言語研究においても言語教育においても重要であるように思うのである。

## 4．個別助動詞の意味・用法と文章ジャンルとの相関関係検討

次に，以下ではもう少し個別の助動詞の意味・用法の面に焦点をあてて検討しよう。紙幅の都合上，ここでは3．2②に関連する形式として，推

量の助動詞「う」「よう」に絞って意味・用法の整理を行ない，それらの分布について，３．２②に見た傾向とも関連づけながら考えてみたい。

### ４．１　「う」「よう」の意味・用法

「う」「よう」の意味・用法は，大きく推量と意志・勧誘の２用法が大別でき，それぞれに疑問用法や派生的用法が存在する[8]。

**〈推量の用法〉**

推量の例は調査資料中に198例ある。この内，「だろう」「でしょう」「であろう」のかたちで用いられた例が182例あり，全体の91.9%を占める。

①月は，私たちにとって，最も身近な天体の一つだろう。
（「月の起源を探る」）

②みんなにはとうていわからないでしょうが，そのころ，甘いものはぜんぜんなかったのです。（「大人になれなかった弟たちに……」）

③化粧台の前に座っている女性の絵が見えるであろう。
（「ちょっと立ち止まって」）

この他，「でございましょう」2例，「ではなかろう(か)」3例，「たろう」2例，動詞や形容詞に直接した「あろう」「なかろう」「よかろう」「いよう」「理解できよう」が各1例ある。いずれも現代語ではやや硬い(または古めかしい)響きを持った形式と言える[9]。

④なるほど島へ行くということは，ほかの人には悲しいことでございましょう。（「高瀬舟」）

⑤早死にした母親は，あんなにうまいものは一度も食わずに死んだのではなかろうか（「盆土産」）

⑥ばらばらになった羽がそこに転がっているのを見た。それをすっかりもとどおりにすることができたら，僕はどんな持ち物でも楽しみでも，喜んで投げ出したろう。（「少年の日の思い出」）

⑦こんなにたくさん珍しいことがあろうなど，それまで私は思ってもみなかった。（「少年の日の思い出」）

⑧これまで私のいたして参ったような苦しみは，どこへ参ってもなかろうと存じます。（「高瀬舟」）

⑨その頃には，雨も小降りになっていよう。（「走れメロス」）

⑩明日，おまえの結婚式を挙げる。早いほうがよかろう。

（「走れメロス」）

「だろう」「でしょう」「であろう」の諸形式は前に「の」が付くと①～⑩の狭義推量用法に対し，推定のニュアンスに近くなる。この場合，本文中に判断の根拠が示されていることも多い。

⑪クニマス漁の権利は代々受けつがれ，江戸時代から残る文書には，誰が，いつ，どれだけクニマスを捕ったかが細かく記録されている。人々はこの魚を捕りすぎないように節度を守っていたのであろう。

（「幻の魚は生きていた」）

⑫弟が死んでいるのでほかの人に遠慮したのでしょう

（「大人になれなかった弟たちに……」）

推量・推定用法が疑問表現のかたちをとって用いられたものに，以下のような例がある。⑬⑭は話し手や書き手にとって不明の点があることを表す疑問の例，⑮⑯は話し手の判断を聞き手に確認する例である。

⑬クニマスはなぜ田沢湖で絶滅したのだろう。

（「幻の魚は生きていた」）【疑問】

⑭いったいどこの沼で捕れたえびだろうか（「盆土産」）【疑問】

⑮アイスプラネット。わかるだろう。氷の惑星だ。

（「アイスプラネット」）【確認】

⑯おまえ得意だろ，こういうの。（「星の花が降るころに」）【確認】

疑問を表す例の中には，反語解釈が成り立つものがある。調査資料中では「高瀬舟」に2例，「故郷」に1例認められた。

⑰これが二十年来，片時も忘れることのなかった故郷であろうか。

（「故郷」）

以上のほかに，感動を表した例が1例見られた。

⑱「なんてきれいなんだろう」（「光る地平線」）

**〈意志・勧誘の用法〉**

意志・勧誘の例は調査資料中107例ある。意志と勧誘とは，その行為が話し手・書き手自身の行為に限定されるか，聞き手・読み手にもその行為を促すものとなっているかの違いである。したがって，両者は連続的であり，基本的には文脈によってそのどちらかを判断する必要がある[10]。

⑲ちぎれた羽を用心深くポケットから引き出そうとすると，羽はばらばらになっていて，繕うことなんかもう思いも寄らなかった。

（「少年の日の思い出」）【意志】

⑳ちょっとひと眠りして，それからすぐに出発しよう，と考えた。

（「走れメロス」）【意志】

㉑「お菓子買いに行こうや。」（「花曇りの向こう」）【勧誘】

㉒試しに，その一つ一つのポーズを君もまねてみよう。

（「君は最後の晩餐を知っているか」）【勧誘】

意志・勧誘用法が疑問表現のかたちをとり，迷いや申し出の意味に用いられた例がある。

㉓……えっと，明日の野外学習にこれ，持って行こうかな。

（「花曇りの向こう」）【迷い】

㉔ふいとお役が御免になったらどうしよう，大病にでもなったらどうしようという疑懼が潜んでいて，……（「高瀬舟」）【迷い】

㉕じゃあがらっと変わって，きれいで小さい宇宙の話をしようか。

（「アイスプラネット」）【申し出】

㉖一年前から，僕はまた，ちょう集めをやっているよ。お目にかけようか。（「少年の日の思い出」）【申し出】

**〈その他〉**

以上に見てきたいずれの用法にも分けられない例として「…しようとする」のかたちで動きの実現が間近であることを表した例が４例見られる。あるいは擬人化された表現中に用いられた意志用法の一種と見なせるかも知れないが，本稿ではひとまずその他としておく。

㉗昼間の明るさは消えうせようとしていた。（「少年の日の思い出」）

㉘いまあふれようとするこの気もちはなんだろう（「春に」）

## ４．２　分析

４．１で見てきた「う・よう」の意味・用法別用例数を，文章ジャンルごとに集計した結果が**表５**である。

【表5】

| 意味・用法 | | 説明 | 文学 | 詩歌 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 推量 | a推量 | 40 | 39 | 2 | 81 |
| | b推定 | 10 | 9 | | 19 |
| | c疑問 | 51 | 23 | 4 | 78 |
| | d確認 | 2 | 14 | | 16 |
| | e反語解釈 | | 3 | | 3 |
| | f感動 | | 1 | | 1 |
| | 推量小計 | 103 | 89 | 6 | 198 |
| 意志・勧誘 | a意志 | 33 | 42 | 1 | 76 |
| | b勧誘 | 4 | 13 | 2 | 19 |
| | c迷い・申し出 | | 10 | 2 | 12 |
| | 意志・勧誘小計 | 37 | 65 | 5 | 107 |
| その他 | | | 3 | 1 | 4 |
| 総計 | | 140 | 157 | 12 | 309 |

左の用例分布について，言語量の相違も踏まえて考えてみると，推量・推定用法は全体に説明的文章が文学的文章よりも多く用いられること(説明：文学＝3.0‰：1.9‰)，意志・勧誘用法はジャンルによる偏りがさほど大きくないこと(説明：文学＝1.1‰：1.4‰)などが分かる。

また，推量用法の中でも，疑問は説明に多い一方，確認や反語解釈の可能な例，感動の例などは基本的に文学的文章にしか見られないこと[11]，同じく意志・勧誘用法の中の迷い・申し出用法も文学的文章の中にしか見られないことなどが分かる。

確認や申し出は対話的用法であるために，反語解釈や感動，迷いは主観性の強い用法であるために，説明的文章では用いられにくいのであろう。

一方，「う」「よう」の推量・推定，疑問の用法が説明的文章に多いのは，こうした文章中にしばしば見られる次の表現の影響が大きいと考えられる。

①話題を「(なぜ)……は～だろう(か)」のような形式で提示する

②筆者の考察結果(解釈)を「～(の)だろう」のような形式で結ぶ

説明的文章では，読者の注意を喚起しつつ，取り扱っているトピックに関する筆者の考えを分かりやすく展開する必要がある。求められているのは表現の美しさよりも分かりやすさであり，それに伴って用いられる文章展開や表現形式も類型的になる。「う」「よう」の使用傾向が他の推量の助動詞と異なるのも，これらの助動詞が文学的文章における表現の多様性とは別の動機(説明的文章に繰り返し用いられる表現形式の「型」の影響)によって用いられていたからであると説明することができよう。

## 5．おわりに

以上，本稿では中学校国語教科書を小コーパスと見立て，これを活用した事例研究として助動詞と文章ジャンルの相関を検討した。その過程で明らかになった各助動詞の使用実態は，助動詞そのものの学習はもちろん，読解・作文指導にも資する面があると言えよう。また，その分布には，少なくとも説明的文章における「型」と，文学的文章における「多様性」の

二つの要因の関与が考えられた。この点は，助動詞の分析だけでなく，助詞その他の表現形式を見ていく上でも有効な視点であると思われる。今後同様の視点からどこまでの腑分けが可能になるか検討していきたい。

本稿で見た用例分布や使用傾向は，今後大規模な言語データによってより確実なものとしていく作業が必須である。しかし，以上のような各表現形式の使用実態の把握が比較的容易であるのは小規模コーパスならではの利点でもあり，ニーズに合った規模のコーパスを作成する意義は大きいように思われる。小規模コーパスの利点を活かしつつ，学年，教科，種類等の拡張，用例分析に必要なデータ項目の精査などを行っていきたい。

【注】

(1) 念のために言えば，本稿執筆者は「文法学習は実用に資するべきものである」と主張したいわけではない。文法学習には，日本語文法の体系的把握それ自体に意義があり，また，論理的思考力の育成といった側面も有しているからである。

(2) 大槻信 2015，pp. 234-237。

(3) 田中牧郎編 2015，渡辺由貴 2016，馬場俊臣 2017，鈴木一史 2019 等。

(4) 加藤祥・浅原正幸・山崎誠 2019a，加藤祥・浅原正幸・山崎誠 2019b 等。

(5) 今回の集計では国語教科書に掲げられる口語助動詞に絞り，「や」「じゃ」等の方言助動詞，「かも知れない」等の複合助動詞，及び文語助動詞は対象としなかった。

(6) 大坪併治 1980，pp. 14-15。

(7) この傾向に外れるように見えるものとして，「う」「よう」と「ようだ」がある。しかし「ようだ」の場合，推定の意味に解釈できる例は 10 例程度であり，その他は皆比喩や例示である。また，その内訳は説明 3，文学 7，詩歌 0 であるから，先の推量・推定の助動詞と同じ傾向と言える。「う」「よう」については 4 章参照。

(8) 分類にあたり，日本語記述文法研究会編 2003 を参考にしたところが大きい。

(9) 「ではなかろう(か)」「たろう」などは感覚が分かれるかも知れないが，「ではないだろう(か)」「ただろう」と比較してみた場合，「ただろう」については調査資料中に 7 例あり，用例数の上からもその消長関係を見ることができるように思う。一方，「ではないだろう(か)」の方は 2 例であり，数の上では「ではなかろう(か)」の方が多い。参考として各用例の出典と所在を示すと，「ではなかろう(か)」は大岡信(1931-2017)「言葉の力」2 例，三浦哲郎(1931-2010)「盆土産」1 例，「ではないだろう(か)」は布施英利(1960-)「君は「最後の晩餐」を知っているか」1 例，小

久保英一郎(1968-)「月の起源を探る」1例である。いずれにしても，もう少し調査対象と範囲を広げて検討する必要がある。

(10) 古典文法「む」に関するものではあるが，意志と勧誘の関係については吉田茂晃 2017，p.3 も参照。

(11) 説明的文章の2例は，「桜守三代」(ノンフィクション)の会話文中の例である。

【参考文献】


大槻信 2015「古代日本語のうつりかわり―読むことと書くこと―」『日本語の起源と古代日本語』臨川書店

大坪併治 1980「平安時代における受身と使役の助動詞の文体論的考察」『国語学』120

加藤祥・浅原正幸・山崎誠 2019a「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』新聞・書籍・雑誌データの助動詞に対する用法情報付与」『2019年度春季大会予稿集』

加藤祥・浅原正幸・山崎誠 2019b「分類語彙表番号を付与した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の書籍・新聞・雑誌データ」『日本語の研究』15(2)

鈴木一史 2019『国語教師のための語彙指導入門』明治図書

田中牧郎編 2015『講座日本語コーパス4　コーパスと国語教育』朝倉書店

馬場俊臣 2017「教科書の接続詞―BCCWJ 教科書データを用いた分析―」『札幌国語研究』22

日本語記述文法研究会編 2003『現代日本語文法④ 第8部モダリティ』くろしお出版

吉田茂晃 2017「生徒に嫌われない古典文法指導を目指して―「推量」の助動詞を面白がる―」『天理大学学報』69(1)

渡辺由貴 2016「BCCWJ の教科書データにおける複合辞―国語教育を視野に―」『じんもんこん 2016 論文集』



(すぎやま　しゅんいちろう　信州大学教育学部)